

## 高等学校教員対象 アクティブ・ラーニング研修会実践報告

### —— 事例に学ぶ具体的手法 ——

鈴木 浩子\*

#### 1. はじめに

東京都教育委員会は、次の学習指導要領改訂や大学入試改革の動きを踏まえ、学習する人が主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業の研究などを行い、全ての都立高校に向けて成果を発信していく学校として、「アクティブ・ラーニング推進校」を指定している。平成28年度、平成29年度、それぞれ15校が指定され、期間は3年間である。アクティブ・ラーニング推進校の取り組みとしては、「校内研修の実施」「先進的に取り組んでいる高校や大学の視察、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業の研究等が紹介されている。

東京都立福生高等学校は、「平成28年度アクティブ・ラーニング推進校」の指定を受け、3年計画でアクティブ・ラーニングの視点に立った指導方法や指導資料の研究開発を進めている。定時制教諭の三五琢磨先生と西谷真一先生は、平成29年度の本学の授業公開に参加され、その後、公開研修「アクティブ・ラーニング研修会」を学内で開催された。その講師として招かれ研修を実施したので、本稿では、研修内容、受講者の反応について報告する。また、今後さらに高大接続を進め、学生の主体性を育む教育を実践するために何が必要となるかについても考えたい。

#### 2. 「アクティブ・ラーニング研修会」実施概要

##### 2-1. 開催の経緯

明星大学明星教育センター主催のアクティブ・ラーニング(以下AL)授業「自立と体験1」公開授業は、平成29年6月9日(土)10日(日)に実施された。第2日目に福生高校の教諭2名が参加され、その場で研修会の実施についての打診があった。その後正式な依頼を受けて、6月23日に、明星教育センター課長と研修担当者2名で打ち合わせに訪問し、詳細を決定した。

開催日時は、7月13日(木)15時30分～17時、福生高校内にて実施する。ねらいは、①AL実践事例から、その効果を知る、②ALを実践するきっかけをつくる、③ALの具体的なコツを知るとした。福生高校は「アクティブ・ラーニング推進校」として活動しているが、実際にAL型授業を実施している教員と、なかなか踏み出せないでいる教員とがいることを前提に、「まずやってみようと思えるようになる研修会」を目指した。そのため進め方は、①ALについて、AL型の研修で学ぶ、②授業内のワークを体験してみるとした。明星大学で実践している授業で実施されているワークを紹介し、活用できそうなものは、高等学校の授業でも使ってもらおうことを目指した。

##### 2-2. 実施概要

「アクティブ・ラーニング実践 事例に学ぶ具体的手法」というテーマで実施された研修会当日のプログラムは、①校長挨拶、②講師紹介、③研修会、④質疑応答、⑤講評であった。参加者13名は、全日制教諭3名、

\* 明星大学明星教育センター常勤教授

定時制教諭8名、その他2名で、4グループに分かれて実施した。研修会の内容は表1のとおりである。

表1 研修会内容

時間	項目	詳細	準備物等
15:35 (5)	導入	①あいさつ・講師自己紹介 ②研修会のねらい・進め方 ・学生役で体験、教員の立場でコツを知る。	4人グループ着席 机上には配布資料、名札用紙、 ポストイット、マーカー、 A2用紙、
15:40 (10)	受講者自己 紹介	①名札の作り方説明・作成 ②自己紹介シート記入・発表リレー	名札用紙・マーカー ポストイット
15:50 (10)	アクティブ・ ラーニング とは	①アクティブ・ラーニングとは何か ②アクティブ・ラーニングの定義 ③頭の中がアクティブであること ④ラーニングピラミッド ⑤アクティブ・ラーニングが求められる背景	
16:00 (15)	実践事例「自 立と体験1」	①「自立と体験1」開講の経緯(初年次教育の導入) ②教育目標 ③授業の特徴 ④授業の構成 ⑤学習の流れ ⑥専門科目とのつながり ⑦実践の成果 ⑧学生の反応 ⑨アクティブ・ラーニングを支える仕組み ⑩担当教員の反応(アンケート抜粋)	
16:15 (30)	アクティブ・ ラーニング 型授業のため の具体的な 授業手法	1. AL型授業を行うために ①目的を知らせる ②方法を理解する ③スキルを身につける ④前向きな意識の醸成 2. 授業手法体験 ①一問一答インタビュー ・今までに体験したALだと思ふ学習 (実施する側・受講する側どちらでも) ②ポストイットワーク ・ALを実施するにあたって気がかりなこと 3. 手法の紹介 ①他者紹介 ②概念化 ・振り返りシートの問いの作り方	ポストイット マーカー A2用紙
16:45 (5)	アクティブ・ ラーニング 実践のコツ	1. 実践のコツ ①教員の関わり方 ②ファシリテーターとしての教員の行動 ③体験学習のステップと教員の役割 ④机の配置、グループ替え ⑤グループ分け ⑥介入の仕方 ⑦アイスブレイク 2. 情報共有とツールの活用 ・ツールを活用する⇒えんたくん	青バッグ えんたくん
16:50 (10)	学びの振り 返り	えんたくんを用いて、グループ内共有。 ・理解したこと・学んだこと ・実践してみようと思うこと ・難しそうだと思うこと	えんたくん マーカー

研修会前半は、本学の「自立と体験1」の紹介、後半はALの具体的手法と、AL実践のコツを紹介した。また、研修会そのものがAL型で進められるように配慮した。実際に体験頂いた手法は、「自立と体験1」から、名札の作成、自己紹介、一問一答インタビュー、ポストイットワーク、概念化の問い、振り返りである。講義内容のポイントを、具体的に取り上げておく。

### 【アクティブ・ラーニングとは】

ALは、「学修者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称」であり、グループワークやディスカッションは学生が「頭の中でアクティブに考える」ための1つの方法であることを説明した。そのうえで、ALにはさまざまな方法があり、現在行っている授業内容の「ALの要素」を工夫することにより、まずは始めてみることを推奨した。

ALに取り組んでいない人にとっては、どうしても準備の手間や苦手意識が先立ってしまう傾向がある。まずはミニテストや振り返りなど慣れ親しんだ方法を改善することから行動してもらうことを目指した。

### 【実践事例「自立と体験1」】

本学で実践している初年次教育授業「自立と体験1」について、大学全体で取り組んでいる様子や、学生の反応・変化を紹介した。

### 【アクティブ・ラーニング型授業のための具体的な授業手法】

AL型授業を行うための準備として、学生を次のような状態にすることが必要である。①目的：なぜAL型(グループワーク)を行うのかを学生が理解していること、②方法：どのように行動すればよいのか(態度目標)を理解していること、③スキル：実際に行動することができるように練習の場があること、④前向きな意識：グループで話しあうことに自信を持ち、楽しさを感じていることの4点である。AL型授業を実施する際、最初にうまくいかないと止めてしまうということがあるが、最初の頃は「ALの練習」と捉えて、学生がALに馴染むようにしていくことが必要である。準備が整えば、その後は学生たちが楽しんで取り組むようになる。

これらの4つの点について「自立と体験1」でどのように実現しているかを説明した。スキルについては、初めの数回の授業で、意識的に実践させ身に付ける機会をつくっている。また学生がALに前向きな意識を持つために、「人と関わることの楽しさ」「グループで話しあい多様な意見を知ることの意義」「グループで話しあうことができる自信」「自分がスキルを獲得している実感」を体験できる場をつくり、その後の専門科目でALを行うための準備としている。高等学校の科目の授業の中でスムーズにALを取り入れるには、初回にこういった準備を行うことがきっかけになるのではないかと提案した。

実際のAL体験として、「今までに体験したALだと思う授業」についての一問一答インタビュー、「AL型授業を実施するにあたって気がかりなこと」のポストイットワークを行った。ここでは様々な意見が出たが、手法の体験に重点を置いたために、解決策の検討についてはやや消化不足になった点があり、最後のアンケートで「ヒントに答えてもらいたい」というご意見を頂いた。

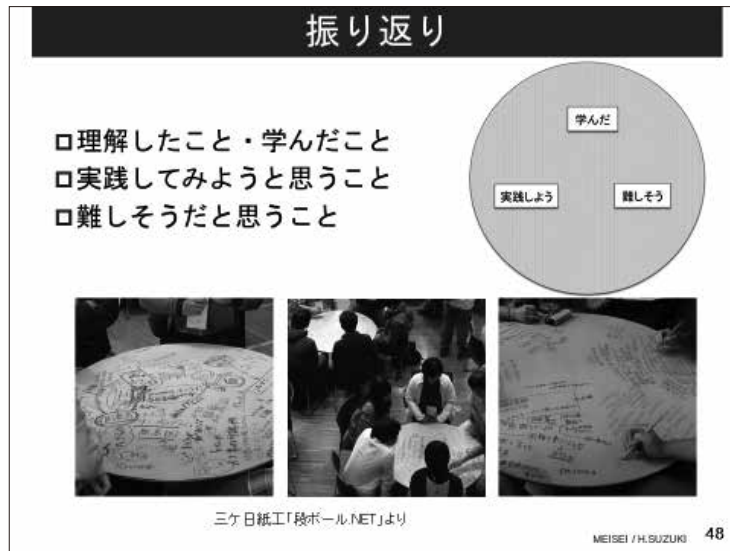
### 【アクティブ・ラーニング実践のコツ】

実践のコツとして、「自立と体験1」教員研修用資料より、次のような点を抜粋して説明した。ファシリテーターとしての教員の関わり方、体験学習のステップと教員の役割、机の配置、グループ替え、グループ分け、介入の仕方、アイスブレイクである。

また環境を整えることで、多くの教員が実践しやすくなるとして、教員同士での情報共有の場づくり、必要資材が整えられていること等の例をあげた。また活用できそうなツールも紹介した。

### 【学びの振り返り】

最後に、「理解したこと・学んだこと、実践してみようと思うこと、難しそうだと思うこと」を少人数で振り返った。その際、三ヶ日紙工の「えんたくん」を実際に使ってみた。身近にあるものを活用するだけでなく、ALのために予算を取ってツールを整えることも、学生たちが興味を持ってALに取り組むためのきっかけになる。



### 3. 受講者アンケート結果

研修会終了後に、記述式のアンケートを実施頂いた。回答者数は13名であった。

「アクティブ・ラーニングの具体的な手法が明確にわかった」については、11名が「当てはまる」と答えた。「当てはまる」と答えた方に授業に生かせそうな手法を尋ねたところ、「机の配置、一問一答インタビュー、生徒の他者と話すスキルを上げるための方法を知ることができてよかった」「一問一答は自己紹介にもつながるので、その後の活動がやりやすい。(一問一答 他4名)」「話し合わせたり、意見を言わせたりするための質問段階設定」「今やっていることがALに当てはまると分かった」「発表リレー、ポストイットの使い方(ポストイット 他2名)」「雰囲気づくりとツール、アイデア」が上がった。一方、1名が「当てはまらない」と答えており、理由として「授業の一方法として考えるものなのか、学生の人間関係構築不全のサポートとして考えるものなのか、目的が判然としない。わからない」と記述している。ALは手法であり、目的ではないことを説明しきれなかった点があったかもしれない。またグループワークを行うことで副次的に得られる他者との関わり方等の汎用能力については、さらに説明が必要だろう。

「研修会の内容は充実したものであった」には、「当てはまる」9名、「ややあてはある」5名であった。具体的に充実していた点としては、「さまざまな具体的な手法を知るとともに体験できて良かったです。ぜひ色々授業で試してみたいです」「えんたくんがとても楽しい」「実際に明星大学で行っている実践を知ることができたこと」「内容がしっかりしていた」「気軽なALもありだと思った」「具体的な話が聞いてよかった」「グループの先生方と意見を共有できた」「具体的に自らが実践したことで、やりにくさ・やりやすさが良くわかった」「実践の一端を垣間見られた」「自分たちも実践したこと」の記述があった。これらの記述を見ると、参加者にAL型授業を行うための4つのポイント、目的、方法、スキル、前向きな意識を持って頂くことができた。この体験が今後の実践につながることを期待する。

「仲良しグループが集まるとALが効果的になると思う。人見知り同士だと難しいと思う」という意見もあった。前にもふれたように、授業を実施しながらALに慣れ、ALのスキルを身に付けさせる意識を持って頂くと、見え方が変わってくると考える。また「人見知り」はスキルを身に付けることにより改善できると、教員・学生の双方が考えることも効果的である。

特に印象に残った点として「えんたくん」を挙げる声が多かった。「えんたくんが印象的でした。みんなでやると様々な意見が出るのでとても参考になると思う」との意見があり、導入として使いやすいツールを揃えることが、学校全体での実践を促進する可能性を感じた。自由意見には、「準備が万全だと思った。AL

で大事なのは準備だと思った」という意見もあった。

#### 4. まとめ

今回の実践を通して、大学での実践の紹介や体験的な研修は、高等学校での AL の実践にも有益なヒントになることが分かった。大学で初年次教育を実施していく上で、高等学校での学びと接続していくことは必須であり、今後も機会があれば高等学校との連携を深めていきたい。

今後に向けて、注意すべき点を挙げておく。実践していない人にとって取り組みやすくするために、今の授業の取り組みに AL の要素があることをお伝えしたが、そのことが「このままで良い」という方向につながらないように留意することは大切である。アンケートの自由意見で頂いた「コミュニケーションが苦手な子であっても、頭の中(考える)アクティブ・ラーニングもあり！でよかった」とのご意見はその通りではあるが、コミュニケーションの苦手さを改善することも、汎用的能力の育成の1つであることは忘れてはならない。学生のコミュニケーションスキルの向上を目指す意味でも、また学生がより深く学ぶためにも、「書く・話す・発表する」などの認知プロセスの外化を伴う AL を、高等学校で実践いただく意義は大きい。

今回の研修の中で、AL を実施する際の気付きとして、科目の授業では「教えねばならないこと」が多く、AL を取り入れることで時間が不足することが大きな悩みであるという話を伺った。この点については、明確な解決策を示すことはできなかった。今回の研修会は、大学の実践と AL の方法の紹介であったが、今後は、高校の授業の実情をご存知の先生方とともに、具体的にどのように授業に取り入れ高校の学びと大学の学びを接続していくかについて、より研究を深めていくことが必要と考える。

#### 参照

『段ボール.NET』 有限会社三ヶ日紙工 <https://www.段ボール.net/>

『多様なタイプの学校の紹介』 東京都教育委員会 [www.kyoiku.metro.tokyo.jp/pickup/p\\_gakko/29pamphlet\\_j/06.pdf](http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/pickup/p_gakko/29pamphlet_j/06.pdf)

#### 追記

今回の研修会の実施にあたり、東京都立福生高等学校定時制課程副校長江沼直樹先生、三五琢磨先生、西谷真一先生に、多くのご協力を頂いた。またアンケート結果のご提供等もご配慮いただいた。深く感謝を申し上げます。